

# スリランカ訪問記

## －子ども達との交流を求めて－

小 竹 利 夫

### Abstract:

To search for interactions with children of Sri Lanka, I visited the country from March 2nd to 9th. The visit was without any prior appointments, but I was able to visit several preschools and public schools. Also, outside of schools I was able to interact with local children at various locations.

From this visit, I was able to sense that Sri Lanka, as a country and its people, value educations of the children that support their future. Also, I was able to understand that even if we cannot communicate by spoken words, touching the heart of pure and innocent children can be possible, by smiling faces, greetings, body language, and toys.

### キーワード：

スリランカ 教育 子ども 交流 コミュニケーション

### はじめに

2013年3月2日から9日まで、当時大学生だった娘と二人でスリランカを訪問しました。スリランカはインドの南東に位置する九州程の大きさの島国（地図1参照）で、2004年のスマトラ島沖地震では津波で死者3万人以上の大きな被害を受けました。また、多数派のシンハラ人と少数派のタミル人との内戦が2009年に終結するまでは不安定な治安状況が続きました。それでも母国語のシンハラ語で“光輝く島”という意味のスリランカは観光資源に恵まれ、8つの世界遺産があります。国民の多くは敬虔な仏教徒で、日本に対して親しみを抱いてくれています。かつてイギリスの植民地であったスリランカは英語教育が盛んで、日本以上に英語が通じます。娘はこれまでも何度か一人でアジアの国々を旅

しており、英語が話せます。スリランカでは仏教寺院や歴史的建造物などの世界遺産を見たかったようです。私は、成長著しい南アジアの子ども達に会ってみたいという気持ちから、英語が堪能な娘とスリランカを訪問することにしました。

### 【1日目】

3月2日早朝に羽田を発ち、シンガポールで乗り継いで、スリランカの空港に着いたのは深夜でした。空港からは、日本で予約したニコボ（地図2参照）という港町のゲストハウス（※日本の民宿みたいなもので、設備は劣るがホテルよりも格段に安い）にタクシーで向かいました。現地の宿は、娘がインターネットを通して、Wi-Fiの通信環境があるゲストハウスを中心に予約してくれていました。

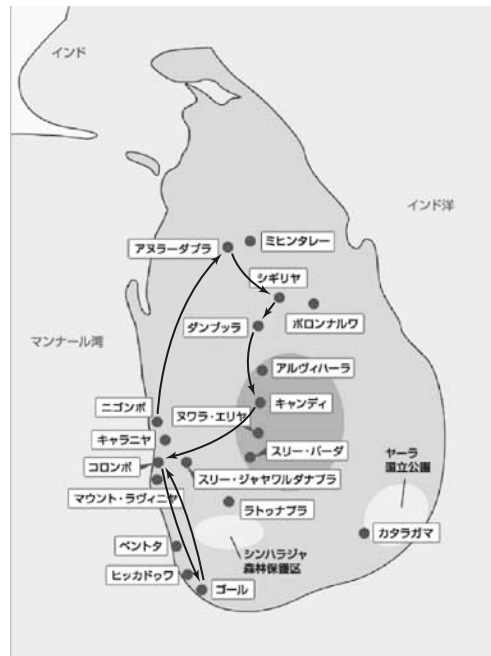


地図1 スリランカの位置

## 【2日目】

3月3日、スリーウィーラー（写真1）でバスステーションに向かい、内陸のアヌラダブラ（地図2参照）行きの路線バスに乗り込みました。そのバスの中で、レシカちゃん（写真2）という可愛い女の子に出会いました。レシカちゃんは通路を挟んだ斜め前の席にお父さんと一緒に座っていました。その隣にはお母さんが赤ちゃんを抱いて座っていました。レシカちゃんは、外国人が珍しいのか私達の方をまじまじと見ていました。娘が笑い掛けると、笑い返してきました。娘が紙で鶴を折ってプレゼントすると、レシカちゃんは嬉しそうにそれを受け取りました。娘がレシカちゃんのお父さんに英語で女の子の名前や年を尋ねると、名前が「レシカ」で、年は「4歳」と教えてくれました。私達がレシカちゃんの仕草を真似してみせると、面白がっていろいろな表情や仕草をしてきました。私達も変顔をする、今度はレシカちゃんが面白がって真似をしてきました。また、指を立てて「one、two、three……」と10まで数えて見せてくれました。その後、レシカちゃんは腕にしていたおもちゃのブレスレットをはずして、それを左右どちらかの手で握り込んで、「ドッチダ？」と言わんばかりに両手を差し出してきました。私達が指差して「コッチ」と応えると、「アタリ」「ハズレ」と楽しんでいました。しばらくしてレシカちゃん一家はバスを降りましたが、レシカちゃんは手を振って私達を見送ってくれました。

英語があまり通じなくても、笑顔を交わし



地図2 スリランカの国内地図

たり、挨拶をしたり、仕草や身振りを真似したり、おもちゃを介したりして楽しく交流することができました。表情や挨拶のみならず、ジェスチャーやおもちゃも広い意味で人と人を繋ぐコトバだと言えます。また、こちらが仲良くなりたいという気持ちで接すれば、相手もこちらを受け入れてくれます。これらのことは、日本の子ども達や障害がある方と接する時にも通じる原則であり、人が人と繋がるための原則は万国共通だと感じました。

アヌラダブラまでは途中バスを乗り換えて約6時間の長旅でした。早速スリーウィーラー（写真2）に乗り込んで遺跡地区にある世界遺産の仏教寺院を見て回りました。途中、野生のイグアナ・孔雀・リス・サルなどにも遭遇しました。

## 【3日目】

3月4日朝、アヌラダブラからトヨタのハイエースに乗り込み、今日の宿があるダンブッラ（地図2参照）を目指しました。スリランカでは5歳から16歳までが義務教育期



写真1 スリーウィーラー  
(別名トゥクトゥク。タクシーより安い  
が、メーターがないので値段交渉が必要)



写真3 スリランカのカレー  
(一皿ずつ具が異なり、混ぜて食べる)

間で、無償です。全体の95%が公立校です。朝は登校する子ども達が街にあふれていて、教育に対する国民の関心の高さが感じられました。登校中の子ども達に「Good morning」と挨拶すると、「Good morning」と返してくれたり、手を振ってくれたりしました。

予定では、午前中に世界遺産のシーギリヤロックに登ることになっていましたが、あいにく朝から降り出した雨が激しくなってきたので、予定を変更してインド・スリランカの伝統医療アーユルヴェーダを体験して天候の回復を待つことにしました。昼過ぎに雨が止み、地元の人達が利用する食堂のカレー(写真3)で腹ごしらえをした後、約1時間かけてシーギリヤロック(写真4)に登りました。かつて大学山岳部で国内外の高山を踏破した足腰もすっかり衰え、200 mたらずの岩山を



写真2 レシカちゃん

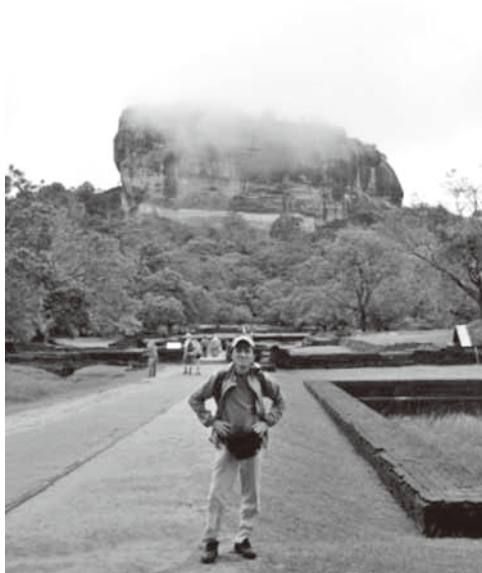


写真4 シーギリヤロック  
(高さ200 mの岩山の上に宮殿跡がある)

息も絶え絶えにやっとの思いで登りました。

途中で学校を見かけたので、車を止めて立ち寄ることにしました。丁度下校の時間で子ども達が学校から出て来ました(写真5)。小学生だと英語があまり通じず、中学生位になると多少英語を話せるようでした。生徒の



写真5 訪問した学校の子も達



写真6 道路を横切る野生の象



写真7 町で見かけた日本製の中古バス  
(子ども達の送迎用に使われていた)



写真8 スリランカの大学生  
(美術学部図書館前で)

一人が男の人を指差して「teacher」と教えてくれました。その先生に私が「私は日本で先生をしています。学校に関心があります。……」とたどたどしい英語で説明をしたら、日本語で「お名前なんですか?」と聞かれたので拍子抜けしました。その後、その先生が学校の中を案内してくれましたが、車に娘を待たせていたので、取材を早々に切り上げて引き返しました。すると、娘も車から降り、校門の前で小学生の子ども達に紙飛行機を作ってプレゼントしていました。

夕方、ジープに乗り替え国立公園内を走ると象やバッファローに出会いました(写真6)。

#### 【4日目】

3月5日朝、ダンブッラの石窟寺院を見学した後、バスでスリランカ第二都市キャン

ディ(地図2参照)を目指しました。キャンディは日本の京都の様な山間<sup>やまあい</sup>の古都で、仏陀の歯が祭られている仏歯寺や伝統芸能のキャンディダンスが有名です。

バスで4時間かけてキャンディに着き、スリーウィーラーに乗り換えて市内の大学や植物園を見て回りました。途中、下校中の子ども達に遭遇し、中古の日本製の幼稚園バスが子ども達の送迎に使われていました(写真7)。

郊外にあるペーラデニヤ大学は、スリランカで最古の大学であるとともに最も入学が難しい大学です。広大な敷地に校舎が点在し、私が格調高い校舎や緑豊かな校庭を撮影している間に、娘はちゃんとイケメンの男子学生と会話を楽しんでいました(写真8)。

その後、近くの植物園を訪問すると、学校





写真 9 紙飛行機作りに集まった子ども達



写真 10 アルファベットの練習ノート



写真 11 地球儀と国旗

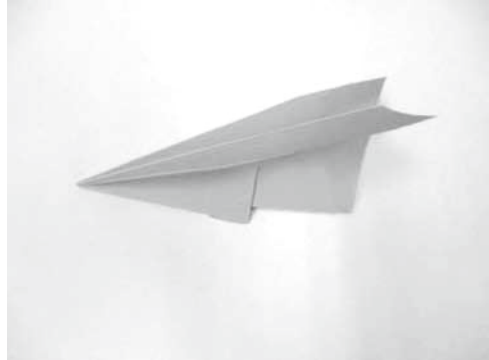


写真 12 子ども達と折った飛行機（通称へそ飛行機）

の遠足で来ていたと思われる小学生の一群に出会いました。英語で挨拶すると皆英語で返してくれ、簡単な会話はできるようでした。自由時間のようなだったので、リュックの中から色紙を取り出し、娘に頼んでにわか「折り紙教室」を開きました。子ども達はすぐに集まってきて、見よう見まねで飛行機を折り上げ、皆で飛ばして遊びました（写真9）。

夜、仏歯寺を参拝したり、キャンディダンスを鑑賞したりしてゲストハウスに戻りました。オーナーに子どもや学校に関心があることを話すと、「妻がプレスクール（※日本の幼稚園にあたる）の先生をしているから、明日見学できるように頼んであげる」と言ってくれました。

#### 【5日目】

3月6日朝、ゲストハウスのオーナーの奥さ

んの車で私立のプレスクールに向かいました。ディレクターと名乗る方に挨拶すると、子どもの写真は親がインターネット上で悪用されることを心配するので許可できないと言われ、教材や作品を中心に撮影することにしました。日本の保育園や幼稚園と同じように、子ども達は年齢ごとにクラスに分かれ、それぞれのクラスを2人から3人の先生が担当していました。クラスごとにお遊戯・体操・歌・お絵描き・製作などの活動をしていましたが、勉強面にも力を入れていました。勉強は、英語（写真10）や数の勉強の他にも世界地図（写真11）や植物の仕組みなど日本では小学校で使うような教材もありました。豊富な教材の多くはモンテッソーリメソッドに由来した物でしたが、先生方手作りの教材もたくさんありました。母国語のシンハラ語による教育は入園直後だけで、すぐに国際語である英語



写真 13 ゴールの要塞



写真 14 スリーウィーラーで下校途中の子ども達



写真 15 色紙で作った花



写真 16 レストランで出会った子ども達

による教育に移行するそうです。スリランカでは英語が使えることが将来の進学や就職に役立つので、特に私立の教育機関では英語教育に力を入れている印象を持ちました。

見学させて頂いたお礼に、5歳クラスの子ども達に色紙で飛行機の折り方を教えました。先生の話では「オリガミ」は授業に取り入れているが、簡単な船を折ったことがあるくらいで、飛行機を折ったことはないとのことでした。娘が英語で説明しながら飛行機を折ってみせて、私や先生が子ども達が折るのをサポートしました。折り紙の経験が乏しいせいか意外と難しかったのですが、それでも何とか全員完成して、先生に名前を書いてもらい嬉しそうに持ち帰っていました。

その後、キャンディの街に出て買い物をしたり昼食を取ったりした後、夕方の列車で3時間かけて実質的な首都コロombo（地図2参

照）に向かいました。

#### 【6日目】

3月7日朝、コロomboからバスで4時間かけて南部の港町ゴール（地図2参照）に着きました。旧市街は、かつてスリランカを植民地としていたポルトガルやオランダによって築かれた要塞に囲まれています（写真13）。スマトラ沖地震の際にはゴールだけでも津波で3000人の死者が出たそうですが、旧市街は要塞のおかげで大きな被害を免れたそうです。

ゲストハウスに荷物を置いて街に出ると、下校途中の子ども達にたくさん出会いました（写真14）。英語で挨拶すると、あちこちで「I like pen」と言われました。その後立ち寄った駄菓子屋で、年配の女性が、かつて日本人の旅行者が子ども達に日本製のボールペンをあげたところ子ども達の間で評判にな



写真 17 男子校の朝礼風景（女性が校長先生）



写真 18 中学生のコンピュータの授業

り、皆それが欲しくて言うのだと教えてくれました。その女性は近所に住んでいて、お茶に誘ってくれました。お宅は古風な2階建ての家屋で、猫6匹とご主人と娘さんと暮らしていました。娘さんは色紙で手作りした花（写真15）や人形を見せてくれました。紙は、フェイスブックで知り合った、会ったことがない日本の友達に送ってもらっているそうです。娘ともフェイスブックの名前を教え合い、若者はインターネットを通して世界と繋がっていることを実感しました。クッキーとセイロンティーをご馳走になった後、インド洋に沈む夕日を見に要塞に向かいました。

夜、レストランで夕食を食べていたら、家族旅行中の欧米人の子ども達に出会いました。その子ども達の仕草を真似していたらすぐに仲良しになり、子ども達はいろんなポーズやダンスを私達に披露してくれました（写真16）。

翌朝、昨日お茶をご馳走してくれた女性がゲストハウスを訪ねてきて、「足の治療をしたいが、病院に行くお金がない」と家族には内緒で治療費の援助を求めてきました。経済的にいまだ貧しいこの国の実情に触れ、複雑な心境でした。

## 【7日目】

3月8日、朝7時に街に出ると、幼稚園から高校まである公立の学校に通う子ども達と子

ども達を送る保護者でごった返していました。学校は男子校と女子校に分かれていて、男子校の校門の外で登校中の子ども達をビデオで撮影していたら、校長先生とおぼしき女性が校内に招き入れてくれました。金曜日は朝礼の日で、仏様への礼拝や生徒代表による英語のスピーチなどの様子を見せてもらいました（写真17）。また、英語の先生によるスピーチもあり、「恥ずかしがらずにどんどん英語を使うことが上達の秘訣だ」といった内容で、私には少々耳の痛い話でした。いずれにせよ、公立の学校でも英語教育に力を入れていることが分かりました。朝礼の後、朝食をとり一旦ゲストハウスに戻りました。

朝食後に再度男子校を訪問して、コンピュータの授業（写真18）やプレスクールのお絵描きの授業（写真19・20）を見せてもらいました。小学生のコンピュータの授業では、補助の先生がインターネットへの接続の仕方を、プロジェクターでパソコン画面をスクリーンに映してシンハラ語で教えていました。一方、私達には英語と日本人の旅行者から教わった片言の日本語で説明してくれました。先生は自宅に招待してくれましたが、残念ながら訪問する時間は私達には残されていませんでした。中学生や校長先生からはメールアドレスを聞かれ、帰国後校長先生から無事帰国したかどうか確認のメールが届きました。



写真 19 プレスクールの図工の授業

昼食後、新市街のバスステーションに向かいました。街は8年前の津波の被害が感じられない程活気にあふれ、東日本大震災の復興が遅れている日本の8年後に一縷の希望を感じました。バスステーションからは高速バスに乗って約2時間かけてコロomboに到着しました。翌日の出国を前にして、旅の無事をスリランカビールで祝いました。

#### あとがき

今回の旅行は、往復の飛行機と現地の宿だけを日本で予約し、それ以外の行程は全く自由な個人旅行でした。できるだけ宿はゲストハウスを利用し、食事は町の大衆食堂でとり、移動は地元の人達が使っているバスやスリーウィーラーを使うようにしました。このようなスタイルの旅行だったから現地の人達との思いがけない交流がたくさんできたのかなと思います。希望していたスリランカの子供達との交流も、事前にプレススクールや学校に対して見学の申し込みはしていませんでしたが、登下校の子供達や学校・プレススクールの子供達と触れ合う機会をたくさん持つことができました。

スリランカの子供達のみならず保護者や先生方も突然の訪問者である私達を温かく迎え入れてくれました。先ず子供達が私達に笑顔や挨拶を返してくれ、その後、それを見た保護者や先生方も笑顔で私達に言葉を掛け



写真 20 鉛筆で家を描き、クレヨンで塗る

てくれました。人と人を繋ぐコトバは、英語以外にも、笑顔・挨拶・身振り・おもちゃ等たくさんありました。

一方で、スリランカの人から流ちょうな英語を聞かされると、英語が苦手な私などは知っている単語を一つでも聞き取ろうと耳をそばだてながら、その場から早く逃げ出した気持ちになったり、もっとゆっくり短い言葉で話して欲しいと願ったりしました。これまで係わってきた言葉が苦手な子どもや障碍がある方も、きっと同じ様な思いを抱いて生活しているのかなと改めてその苦労に気付かされました。

最後に、子どもと交流したいという私の希望を叶えるために献身的に動いてくれた娘に深く感謝したいと思います。行く先々で私に代わって英語で交渉してくれたり、スリランカの人々の英語を私に通訳してくれたり、また子どもと遊んでくれたりと孤軍奮闘してくれました。娘がいなければ今回の様な充実した旅は実現しなかったと思います。その娘も、旅に出る前は子どもにあまり関心がなかったようですが、現地で子ども達と交流を重ねる



中で、子どもと係わる楽しさの一端に触れる  
ことができたようです。

今回の旅を通して、「子どもの心は皆同じ  
だ」ということを改めて感じました。人種の  
違い、顔の色の違い、貧富の違い、言葉の違  
い……その様な外見の差異に惑わされること  
なく、子どもの内面を見ようと努力すること  
で、日本の子どもと何ら変わらない純真無垢  
な子どもの心に触れることができました。

※スリランカの国民は教育熱心で、識字  
率、就学率ともに 90%を超えています。  
しかし、学校は設備やカリキュラムの  
整備が遅れ、教師の指導力や数にも問  
題があります。小学校終了時に全校統  
一試験があり、成績優秀な生徒には奨  
学金が支給されます。中学校までが義  
務教育で、全校統一試験（O レベル）  
を受験して高等学校に進学します。高  
等学校終了時に、大学進学資格試験（A  
レベル）を受験します。高校への進学  
率は約 40%、大学への進学はかなり難  
関で、進学率は約 2%弱となっています。  
このようなピラミッド型の進学制度が  
過度な受験社会を形成する一因になっ  
ています。幼稚園にあたるプレスクー  
ルは福祉的側面が強く、主として民間  
が担っています。

#### 参考文献

- 山田千春（2006）「スリランカにおける貧困  
と教育」教育福祉研究，第 12 号，pp11-  
23.
- 清水由紀・坪川紅美（2007）「スリランカに  
おける幼児教育」平成 16 年度 -18 年度科  
学研究費補助金 基盤研究（B）研究成  
果報告書.
- 外務省「諸外国・地域の学校情報」（2014）.  
[www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world\\_  
school/01asia/infoC10500.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/01asia/infoC10500.html)